

玉江事件（巫 10/10 ごろ電話で聞き取り）

1. 昭和 58 年に浅草から北九州に帰り、地元の信用金庫の口座を開設した。
2. 当地で、「スナック圭」という 10 人くらいが収容人数のスナックを開業したところ、営業は好調だった。
3. 常連客で「株式会社まるげん」という大きなビル会社の社長が、多くの客がスナックの店に入りきれないので、大きな店を開くようしつこく誘われた。
4. その誘いに応じて、その会社が所有するビルの 3 室を借りて、一つの店にして、大きな店を開業した（昭和 60 年）。
5. その店も好調だったが、やくざが来るので店を閉めて、3 つの部屋に分けて、店舗として貸した。そのうちの一軒を 900 万円で売却した。
6. 売却代金で、まるげんの別のビルに 3 軒の店を手に入れ、それを貸し出した。そのころ、営業は順調だった。
7. そのころ、道を歩いていたら不動産屋の事務員に声を掛けられ、喫茶店と不動産屋を営業しているので、遊びに来てくださいといわれた。
8. そこで、訪ねてみると、いろいろな世間話をして、良い印象を持ったので、「私は母親と一緒に暮らせる家を探しているので、いい物件があったら教えて」と依頼して、退去し、よく不動産屋を訪れて話をするような間柄になった。
9. すると、不動産屋の別の事務員が、競売物件を自分で買えば、難しいことはないよと言われ、指定された競売物件を見に行くと、マンションで悪くはなかったので購入した。ただし、床が落ちているなど、内装ががたがただだったので、お金をかけて工事して、そこに住もうと思った。
10. ところが、住み始めてみると、やくざが隣の部屋にいて、環境が悪かったので、すぐに売却することにした。買い手がついて 880 万円で売れた。
11. そのころ、お金を 2 か月だけで返すから貸してくれという人がいて、その人は銀行ブラックリストに載っているもので、銀行には借りられないので、玉江さんが借りることにして、その人に渡した。銀行にはその事情を話していた。
12. ところが、2 か月経っても、返金せず、その人は雲隠れしたので、借金は取り戻せなくなった。必死になって探したが見つかったのは数年後で、病院の相部屋に入院していた（詐欺）。
13. 銀行に借りた借金については、店舗の売却代金の 880 万円から差し引いて支払った。